

計画では、「めざすべき環境像」や「6つのまちの姿」を実現する上で、社会的要請の高い課題、市の環境特性に関係する課題、すべての主体の取組が不可欠な課題など、積極的な取組が求められる重点分野を明らかにし、数値目標や指標を示しています。

重点分野

地球温暖化・エネルギー対策の推進

【重点分野の目標の達成状況】

- 市域における温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、本市の特徴である優れた環境技術を活かし地球全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献することで2020年度までに1990年度における市域の温室効果ガス排出量の25%以上に相当する量の削減を目指す。
⇒2009年度の温室効果ガス排出量は2,339万トンCO₂

市内の温室効果ガス総排出量の2008年度（改訂値）は、2,523万トンCO₂、2009年度（暫定値）は2,339万トンCO₂で、基準年度（※）の総排出量2,922万トンCO₂と比べ、2008年度13.7%の減少、2009年度20.0%の減少となっております。

市内の温室効果ガス排出量

（単位：万トンCO₂）

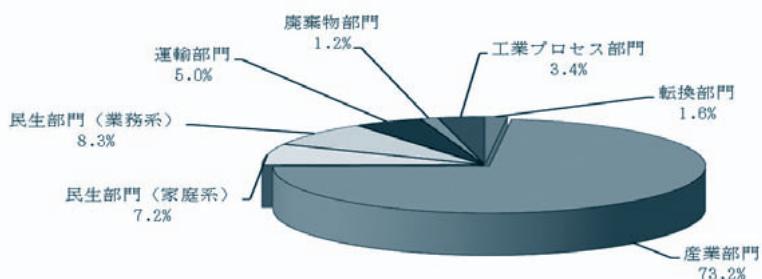
温室効果ガス	換算値	基準年度*	2007年度	2008年度 (改訂値)	2009年度 (暫定値)	基準年度との比較
温室効果ガス総排出量	-	2,922	2,676	2,523	2,339	-20.0%
削減率（基準年度比）	-	-	8.4%	13.7%	20.0%	
内訳	二酸化炭素	1	2,671	2,615	2,470	-14.0%
	メタン	21	1.3	2.0	1.9	40.3%
	一酸化二窒素	310	7.8	9.9	10.2	30.6%
	HFCs	1,300等	25.5	8.0	8.8	-76.2%
	PFCs	6,500等	16.7	37.0	29.1	29.9%
	六ふつ化硫黄	23,900	200.4	4.4	3.1	-98.1%

※二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は1990年度、それ以外の3ガスは1995年度

市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比（2009年度暫定値ベース）

2009年度の部門別の二酸化炭素の排出割合では、産業部門が73%と大きな排出源となっています。

次に大きな排出割合となっているのは民生部門（業務系）の8%で、以下民生部門（家庭系）、運輸部門が続いています。



*改定値・暫定値：算定に使用する国のデータに修正見込みがあるため従来と異なる方法により算出しています。今後、国のデータ修正の後、例年の算定方法により再算定します。

『かわさきコンパクト』

かわさきコンパクトは、日本の自治体で唯一国連グローバルコンパクトに参加している川崎市が、市民・事業者と協働で取組んでいる活動です。国連グローバルコンパクトは、人権・労働・環境などの分野で、参加組織が社会的責任を果たし、地域の課題に自主的に取組むことを目標としています。

かわさきコンパクトは、市民コンパクト・ビジネスコンパクトで構成されています。市民活動団体・事業者・川崎市が一体となり、社会貢献や地域課題の解決など、それぞれの活動を通じ国際社会に貢献しています。詳しくは、かわさきコンパクトホームページ（<http://www.kawasaki-compact.com/index.html>）をご覧ください。